

## 園だより夏休み

主はわたしを草原の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせて  
くださる。

詩篇 23 篇 2~3 節

猛暑の続いた7月の日々も、子どもたちは汗をかきながらお家の方と一緒に園庭門から登園し、幼稚園の一日は始まりました。今学期も毎日、子どもたちと手を繋ぎ「おはようございます」と挨拶、保護者の方々と「お預かりいたします」とご挨拶、早朝登園や園庭門が閉まってから登園の子どもたちとは朝の出会いのときに手を繋ぎ挨拶をを交わす、その様な朝のスタートは感謝のひとつときでした。

子どもたちそれぞれとの時間にして、ほんの数分のことですが、子どもの表情、手の温かさ、挨拶の様子からその日の様々な心もちを感じ取ります。気になるときは保護者の方にお尋ねをすることも。そのようにして一人ひとりを受け止めながら「今日も大切な命を預らせていただきます」との思いで「お預かりいたします」と保護者の皆様とはご挨拶させていただいております。毎日繰り返される日常のひとつときですが、私にとっては子どもたちの大切な命をお預かりする心引き締まるときともなるのです。挨拶を元気にする子、小さな声で、あるいは無言で・・・の子、にこにこ嬉しそうにする子、泣く子、目を合わせてする子、周りの様子が気になりきよろきよろしたり、遠くを見ながらの子などなど。それぞれの表現から様々な心もちが伝わって来ます。その様な一人ひとりとの素直なかかわりは心の引き締まるときであると共に、今日も子どもたちと心を通わせて過ごせることへの喜び、嬉しさが湧いてくるときでもあるのです。そして、園庭門にカギをかける頃には子どもたちから沢山のエネルギーを貰い、充実した一日の始まりとなります。幼稚園で交わされる挨拶はいわゆる「形の整った挨拶」とは違うかもしれません。(形としての良い挨拶は子どもたちの成長と共に整っていきます)けれども、形よりも大切と考える心の交わりが毎朝の挨拶で成されています。

今学期も挨拶と同様、園生活の日々では常に「子どもたちにとって大切なこと」を考えながら過ごして参りました。保護者の皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。猛暑の夏休み、皆様の健康が守られますことお祈りいたします。くれぐれもご自愛ください。

園長 駿河 幸子